

救急救命講習

1月16日（火）に2年生を対象に救急救命講習が実施されました。講師として来ていただいた大河原消防署川崎出張所の方々の説明を真剣に聞きながら、講習に臨んでいました。万一の事態に備え、しっかり学習することができました。

消防士からの講話を受けて、また、心肺蘇生の実習を通して、感じたことや思ったことを振り返りました。（生徒作文原文）

胸骨圧迫をして思ったことは2つあります。1つ目は、周りをよく見て声を出すことが大切だと思いました。119番通報することや、AEDを持って来てほしいなど、自分1人でできないこともあるので、周りの人と協力することが必要だと思いました。2つ目は、倒れている人の顔を見ながら作業を行うことが大切だと思いました。意識が戻っているのに心臓マッサージをしてしまうかも知れないし、死戦期呼吸と普通の呼吸を見分けるのも顔を見ながら行う必要があると思ったからです。今日習ったことは、できれば使いたくないけど、何かあったときに少しでも力になることができるよう、忘れないようにしたいです。

今日は、応急手当の勉強をさせていただいて、胸骨圧迫とAEDの使用を主に体験しました。胸骨圧迫は、思っていたより強くやらないといけなかったし、2分で疲れたし、大変な作業だなと思いました。AEDは想像より使い方が簡単で、もし今から何か起きても使えると思うけれど、今日のように確認しないと本番で分からなくなるので、学習してよかったです。他にも、のどに物を詰まらせたときや、骨が折れたときの応急手当を学んだので、使えるものは使って何かあったときには対応したいです。家族や友達に倒れたりしてほしいわけではないけれど、事故が起きて心臓や呼吸が止まっているときは、一生懸命心肺蘇生を頑張りたいです。

